

第 22 回 薬物乱用防止教育研修会

鈴木 基泰

日時：平成 25 年 8 月 17 日（土） 9:55～16:30

場所：東京都立東高等学校しおさいホール

教育講演：薬物乱用防止教育の進め方

神戸大学名誉教授 石川 哲也

薬物に関する知識や理解、行動スキルや抵抗スキルを育てる等、目的を明確にしないと子供の心には沁みわたらない。

外部講師を決める際も、目標やねらいを決めて講師選定をすること。また学校での実態を知らせ、学校が行っている指導方法や指導内容に即するように連絡を取り合うこと。（薬物経験者は一次予防の講師選定としては注意が必要である。）

ノーマティブ教育、グループディスカッション、保護者も巻き込むことが効果的である。

研究講演：青少年の薬物乱用の実態と精神毒性

国立精神・神経医療センター薬物依存研究部長 和田 清

いろいろな規制の対応をとっても「捕まる薬物」から「捕まらない薬物」へ乱用の流行が激変している。

その「捕まらない薬物（脱法ドラック）」は、成分がわからず何が起こるか分からない。それに加え、成分の均一性もないので何が起きても不思議ではない。時には急性毒性によって「依存」する前に急性中毒に陥ることもある。

法による取り締まりの限界が感じられるので、健康教育の一層の強化、内容の点検が大事である。と共に「普通の生活」の維持も大きく影響と考える。

基調講演：最近の薬物乱用の現状と薬物対策

厚生労働省北海道厚生局麻薬取締部長 梅田 国樹

薬物乱用の問題点として、健康に害が生じる事と、持っているだけでも犯罪だという事が、安易に考えられている。正しい知識を持たせることの大切さはもちろん、断る勇気を持たせる事は大事。とはいえ、簡単に勇気を持てるほど子供は強くない。その際のロールプレイングは有効である。

実践報告と意見交換
鹿児島県における薬物乱用防止教育
鹿児島県学校環境衛生学会 山口 三千男

鹿児島県学校環境衛生学会と学校薬剤師とで長崎税関鹿児島支所に働きかけ実現された企画を紹介。今後、県下の多くの学校に広く勧めていきたいと計画し、税関にも協力を求めたい。この企画は今年で3年を経過。毎年数校で実施、今までに十数校で実施してきた。

実践報告と意見交換
小学校における薬物乱用防止教育
豊島区立椎名町小学校教諭 森栗 敏子

薬物に関する知識の実態を調べると、情報としてわかっているが、曖昧な知識である。薬物乱用の定義、依存について、違法である事等をしっかりと理解させ、きっかけについて話すとともに、断り方、逃げ方をワークシートに書かせる。その後、キャラバンカーを見学することで再確認。そして、断り方のロールプレイを行い、自分で自分を守る方法を学んだ。

実践報告と意見交換
健康な心と体の育成
埼玉大学教育学部附属特別支援学校養護教諭 大山 洋子

薬物乱用防止教育を含めた健康教育のみならず、「朝のあいさつ運動」を行い、いろいろな場面・機会においてコミュニケーション能力を高めライフスキル能力を身につけさせた。かけがいのない大切な命について自他共に認め、望ましい人間関係を築いていくことが、自分の将来の夢や希望の実現、幸せな人生を歩んでいくことにつながることを理解させた。

実践報告と意見交換
科目「保健」授業実践報告
東京都立町田高等学校主任教諭 山下 剛

「保健」に向ける生徒の期待と実態を紹介したが、途中時間切れとなってしまう、伝えたいことを伝えられずに終わってしまった。